

# 食品総合研究所が独立して存在する意義



農林水産省  
食品総合研究所

H13年独法化

「食品の流通・加工に関する研究」  
を担当する  
独立行政法人食品総合研究所

## 国の政策課題

食料消費に関する施策の充実  
及び食品産業の健全な発展の  
推進に貢献すること

(食料の安全・安心の確保)

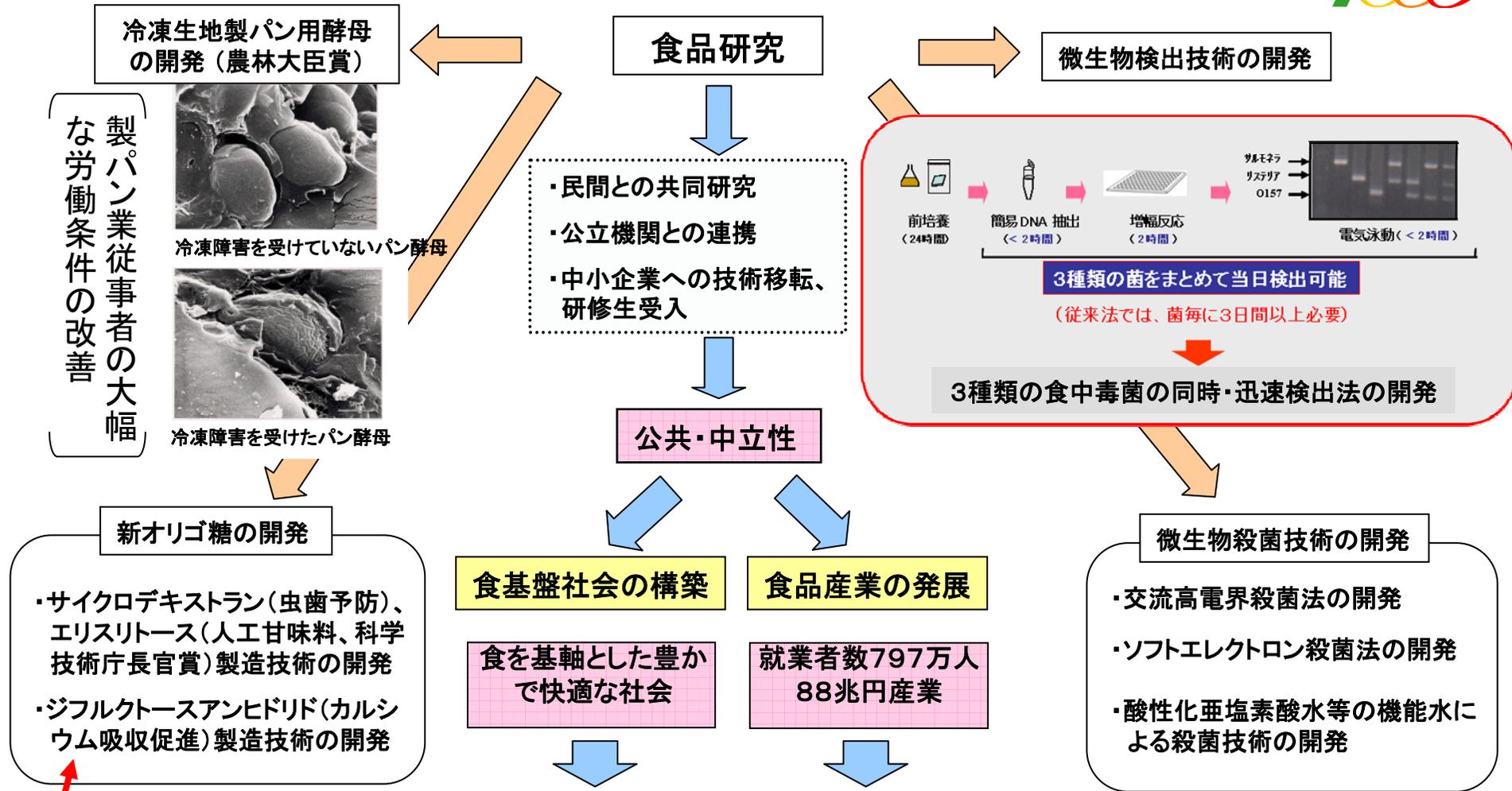
## 研究所の貢献

- ①食品素材の利用技術、食品製造技術の高度化等を実施
- ②食品表示・品質保証制度に対応した分析技術の高度化
- ③食品の安全性確保技術の開発

## 食品総合研究所の特徴

研究手法	研究に必要な学問領域	期待される成果	社会的背景	理事長のトップマネジメント発揮の例
食品科学・技術	生化学 微生物学 分析化学 食品衛生学 食品工学等	食の安全・安心 先端的食品加工 ・流通技術	食品産業就業者数797万人 88兆円産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品安全性等の行政的・社会的ニーズへの迅速な対応を図るチームの設置</li> <li>・緊急対応として「アクリルアミド問題ワーキンググループ」の設置</li> <li>・先導的な研究のための重点研究分野・新領域の設定</li> </ul>

# 食品総合研究所の具体的成果



理事長のトップマネジメントによる機動的な運営により、社会的ニーズに的確に対応  
中期目標の達成状況は、数値目標も含め、総合評価はA

他法人と統合すれば、全組織の意志決定、予算配分・決算に時間を要し、  
食品の安全性に係る問題などへの緊急対応時に、機動性が発揮されないおそれ

→ **現在の組織体制を維持することが望ましい**

人体に効果的な  
基礎素材の開発